

「総合」とは何か

日高 敏隆

「総合」「総合」っていうけれど、「総合」っていったい何なんだ？総合地球環境学研究所ができたとき、まず問題になったのはそれだった。

世のなかには「総合大学」というのがある。医学部だけでできている医科大学は単科大学だ。これはすぐわかる。そして、京大や東大のように複数の学部から成るのは総合大学という。

けれど、学部がいくつあつたら総合大学になるのか？そう考えたらわからなくなる。

たとえば京大には一〇学部があり、何百という学科があるが、だから総合大学か？

学部がちがうと先生も学生も互いにほとんど顔も知らないという状態で、「総合」的な教育も研究もおこなわれているとは思われない。それでも「総合」大学なのか？

こんな議論のなかでほくは考えた。

地球環境学というのはたしかに総合的な学問である。そこには自然科学的な問題ばかりでなく、人文社会学的な問題が、つねにからまっている。「総合」的に研究を進めねば、問題の解決には近づけない。けれど、その「総合」とはどういうことなのだ？

いろいろ議論しているうちに、ほくはふと、じつにふざけた表現を思いついた。「総合とは五目チャー

ハンのようなものである」。

旨い五目チャーハンを作るには、コメとか肉とか油とか、いろいろな専門の人が必要である。

けれど、そういう専門家をひととお集めたら、それでよいのか？

専門家たちが、それぞれ自分の作った自慢のコメや肉や油を皿に入れて並べる。それをひとつずつ食べていけば、旨い五目チャーハンができるのか？そんなことはけつしてない。

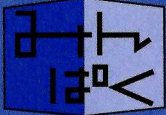
五目チャーハンを作るには、専門家たちのコメや肉や油をひとつのフライパンにほつり込み、火にかけてそれをはげしくかきまわす。そしてそれをまとめて食べる。それでこそ、「おつ、旨いチャーハンだ！」ということがわかる。総合とはこんなものだ。ほくはそう考えたのである。

その後フランスを訪れたとき、「総合とは何だ？」という議論になった。

フランスではチャーハンのことをリ・カントネイ (riz kantonais) つまり広東ライスという。「総合」とはリ・カントネイのようなものですよ。「ほくのこのことは、フランスの研究者たちは、皆大きくうなずいてくれた。

ひだか としたか / 1930年東京都生まれ。動物行動学者。京都大学名誉教授。東京大学理学部動物学卒業。理学博士。『春の数えかた』(新潮社)で日本エッセイストクラブ賞受賞。『人間は遺伝か環境か？ 遺伝的プログラム論』(文藝春秋)、訳書『ソロモンの指環』(早川書房)ほか著書・訳書多数。

月刊



目次

MARCH 2008
月刊みんばく

3

01 エッセイ 世界へ世界から
「総合」とは何か
日高 敏隆

02 特集 西南中国

多彩な少数民族
塚田 誠之
王朝から見た異人たち
武内 房司
ペー族の木の匠
横山 真子

トン族にとって「チャー」とは？

兼重 努

観光商品としての水かけ祭り

長谷川 清

エスニックメーカーとしての道教宗派

吉野 晃

08 モノ・グラフ
民博のお宝映像・お蔵入り映像

大森 康宏

10 地球ミュージアム紀行
メキシコのお盆

鈴木 紀

11 表紙モノ語り
あやつり人形劇の人形

塚田 誠之

12 みんばくインフォメーション

14 万国津々浦々
ソロモン諸島の「公平」さ
田中 求

15 万国津々浦々
モンゴルの「産業遺産」
前川 斐

16 外国人として生きる
僕のこと
ハン チェドン

18 地球を集める
アムール川をいく白樺の舟
佐々木 史郎

20 生きもの博物誌
秘伝の味
山本 睦

22 フィールドで考える
ガーナの薬屋さん
浜田 明範

24 開館30周年記念事業のご案内
編集後記